

解 答 速 報

福岡大学医学部 英語

2021年 2月2日実施

〔I〕 夢を極力体系的に採りあげて調べる場合でも、一般的に夢にはわずかだが覚醒時の
 体験よりも依然として感情が強く表れている。このことにより複数の科学者は、夢
 をみることの機能に関する議論の中心に感情と感情の制御を据えてきたのである。

〔II〕

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 1 | 3 | 1 | 5 | 1 | 6 | 1 | 8 |

〔III〕

| | | | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) | (f) | (g) | (h) |
| 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | |
| | 4 | 2 | 1 | 1 | 3 | 2 | 3 | 1 |

〔IV〕

| | | | | | | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) | (f) |
| 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | |
| | 5 | 1 | 1 | 2 | 3 | 4 |

〔V〕

| | | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | (a) | (b) | (c) | (d) | (e) | (f) |
| A | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 |
| | 2 | 5 | 1 | 7 | 4 | 6 |
| B | 50 | 51 | 52 | 53 | 54 | 55 |
| | 5 | 2 | 4 | 7 | 1 | 3 |
| C | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 |
| | 3 | 5 | 2 | 7 | 6 | 1 |
| D | 62 | 63 | 64 | 65 | 66 | 67 |
| | 4 | 5 | 3 | 2 | 7 | 6 |

〔I〕 夢を毎日のように覚えている人もいれば、ずっと夢を見続けていることに気づいてさえいない様子の人もある。夢を覚えている人の方の多くは、とりわけ感情が大きく揺れ動く夢を覚えている。なぜなら人は特徴のない経験ではなく感情が大きく揺り動かされた経験を思い出す傾向があるからだ。このことによって起こる一般的誤りは、夢はすべて感情によってもたらされたものであるということなのだが、この誤りは実際のところ、記憶の偏りの産物にすぎないのである。日常生活においても感情が大きく揺り動かされた経験は記憶しやすく、こういった経験は時間とともに激烈性及び誘発性が変化する。にもかかわらず、夢を極力体系的に採りあげて調べる場合でも、一般的に夢にはわずかながら覚醒時の体験よりも感情が強く表れている。このことにより複数の科学者は、夢をみることの機能に関する議論の中心に感情と感情の制御を据えてきたのである。

〔II〕 13, 15, 16, 18

- 11: 選択肢は、「子育てを協力して行えないため、子育ては動物にとって難しい」という内容だが、第1段落第1文及び第2文には動物にとって協力することの重要性及び、そうすることによって生き抜いてきたということが説明されているので不適。
- 12: 選択肢は、「水棲動物よりも陸棲動物の方が集団思考の能力に秀でている」という内容だが、第2段落第1文からは、主な研究対象は陸棲動物で、水棲動物についての理解が進んでいないということがわかるが、集団思考の能力の優劣を論じているわけではないので不適。
- 13: 選択肢は、「イルカは生涯同じ社会集団に属するわけではない」という内容。第2段落第3文の where 以下の「集団は時間とともに離合集散する」という内容と一致する。
- 14: 選択肢は、「イルカの集団行動の研究者たちをイルカが訓練してきた」という内容であるが、該当する箇所は本文中に確認できない。
- 15: 選択肢は、「本来、ヒラタ氏の課題は海洋環境で利用するために開発されたものではなかった」という内容。第5段落の「数多くの陸棲動物には協力する能力が備わっていることを示すためにヒラタ氏の課題が何度も用いられてきた」という内容から、元々は陸棲動物用の作業課題として設計されたということがわかることから選択肢は正しい。
- 16: 選択肢は、「陸棲であるか、水棲であるかに関わらず、一部の動物は協力する能力を身につけてきた」という内容。第2段落第2文で、イルカが協力する能力を持った水棲動物の一例として挙げられていることから、他にも協力する能力を持った水棲動物がいることがわかる。さらに、第5段落にはチンパンジーなどの協力する能力を持った陸棲動物が例示されていることから選択肢は正しい。
- 17: 選択肢は、「先行するイルカの行動に合わせるできないイルカは追従役に回ることになる」という内容だが、実際は、第6段落第2文から人間がロープのところに連れてきた順に、the starter dolphins, the follower dolphins になるのであり、イルカ自身の能力の優劣ではなく人間の意図により決まるため不適。
- 18: 選択肢は、「イルカが共同作業をすることでチンパンジーのつがいよりもうまく即時的に変化できる」という内容。イルカとチンパンジーの比較関係は、第7段落第2文 But 以下で、イルカはチンパンジーよりも、作業する相手が必要としていることを理解する際の柔軟性が高いとあり、さらに第3文にイルカは相手の位置によって行動を変える能力があると説明されていることから選択肢は正しい。
- 19: 選択肢は、「研究者はイルカの協力的行動が親和行動を引き起こすことを発見した」とある。第8段落第1文の「(イルカが) 協力する能力は、親和行動形式において発達しているようだ」とあり、選択肢のように因果関係とするのは誤りのため不適。
- 20: 選択肢は、「泳ぐ能力を持たない動物は社会的に協力できない」という内容であるが、第1段落および第2段落第1文より、協力する能力の研究対象である動物の多くが陸棲であることがわかり、また、選択肢の内容は本文中に確認できないので不適。

- [III] (a) 4. less interested in
 “~ less attention is paid by children to the toys they play with that are () them.”
 下線部中の “that” は関係代名詞で、先行詞は “the toys” である。
 4. は “less interesting to” とすべきである。
- (b) 2. couldn't have negotiation of
 “The workers soon realized that their labor union leader () better working conditions.”
 最も正誤の判断がしづらい問題。2. と 3. “was able to negotiate” とで迷うところ。
 2. は “couldn't have negotiations for[on]” にすべきである。
- (c) 1. is promotion to
 “Regularly consuming products derived from milk () the strength of bones and teeth.”
 1. だと「～への昇格である」という意味になり、意味が通らない。
- (d) 1. to make easily
 “~, the wisest decision is not always ().”
 1. は “make” の目的語がなく意味が通らないので不適。
- (e) 3. gained reward of
 “~, the aid organization () international recognition for its charity work.”
 本文は「国際的に認知された」という意味になる。“gained reward of international recognition” だと、「国際的に認知されたことの対価を得た」ことになり、意味が通らない。
- (f) 2. are broadcasting in
 “~, announcements () the media advising people to drink more water ...”
 2. では「発表が間もなく放送をする」となり、意味が通らない。
 2. は “are broadcast in” とすべきである。
- (g) 3. are never been
 “The dangers faced by the pioneers of powered flight a century ago () forgotten.”
 3. の “be動詞 + been” は文法的にありえない形である。
- (h) 1. couldn't wait
 “Considering how much time we () for the staff to serve our meal, you'd think they could have apologized to us.”
 空所を含む1文で表されているのは「我々は食事が運ばれるのを長時間待った」という内容の
 で、「待てなかった」という意味の 1. は不適。
- [IV] (a) 5 conféss [ɛ́]と同じものは wéalthy
 1. refér [ɛ́:] 2. cómmon [ɔ́] 3. cóuntry [á] 4. sécret [í:]
- (b) 1 dený [áɪ]と同じものは implý
 2. séction [ɛ́] 3. tróphy [óu] 4. guílty [í] 5. féver [í:]
- (c) 1 hóstage [ɔ́]と同じものは módify
 2. fátal [ɛ́] 3. postpóne [óu] 4. póstage [óu] 5. recóvery [á]
- (d) 2 sálary [ɛ́]と同じものは rácional
 1. relácion [ɛ́ɪ] 3. Sátan [ɛ́ɪ] 4. náture [ɛ́ɪ] 5. nával [ɛ́ɪ]

- (e) 3 suburb [ʌ]と同じものは another
 1. párticle [á:] 2. supérb [é:] 4. póverty [ó] 5. búreau [jú]
- (f) 4 ignorance [í]と同じものは ínterview
 1. nórmally [ó:] 2. acknówledge [ó] 3. nówhere [óu] 5. définitely [é]

[V] A. 2 5 1 7 4 6

Be advised that this medicine has side effects, so please do not exceed the recommended dose.

与えられた日本文、選択肢、及び so 以下の命令文から side effects 「副作用」が 7. this medicine にある、という内容で並べ、後半の空所 (d), (e), (f) が確定する。日本文とは異なるものの、残りの選択肢から be advised that SV 「SVをご承知おきください」を並べ、前半の空所を確定する。so は接続詞なので、so の前後はどちらも完全文になる。双方が命令文であることも可能である。

B. 5 2 4 7 1 3

Nobody but you would do a thing like that.

日本文より Only you を主語と誤答しないように注意する。but を「～以外の」という前置詞で扱い、Nobody but you ~ 「あなた以外の誰も～ない」という構造で並べる。

C. 3 5 2 7 6 1

I'd appreciate it if you could accept my application form, **attached to this e-mail**.

仮定法を用いることで「丁寧な依頼」を述べる定型表現である I would appreciate it if ... から前半の空所 (a), (b), (c) が確定する。仮に定型表現を知らなかったとしても、「～に感謝する」という意味では、appreciate は thank と異なり、人ではなく物(事)を目的語にとる、it は副詞節内の内容も指すことができるという理解があれば確定できる。attach A to B 「AをBに添付する」から「メールに添付しました」を表す後半の空所が確定する。

D. 4 5 3 2 7 6

She **presented herself** as an English teacher, **which she was not**.

与えられた日本文、選択肢より、空所 (a) の動詞に置くことができるのは presented のみである。目的語は自分自身であるため、空所 (b) には再帰代名詞である herself を置く。空所 (c) 以下は関係詞の非制限用法である。

講評

- I [英文和訳] (標準) 文構造自体は易しいが、一部に抽象的で訳出しづらい表現がある。やや長い下線部になっているが、文章全体の内容を理解しつつ、下線部の構造に基づいた訳出が求められる。
- II [長文内容一致] (易) 「動物の協力行動」に関する英文。文章・選択肢ともに平易で迷うところはない。
- III [文法語法四択] (やや難) 昨年に引き続き「適していないもの」を選択する問題。全体的にやや難しい。
- IV [発音アクセント] (標準) 形式は例年通り。見慣れない単語は少数だが、アクセントの正確な知識がなければ間違える可能性が高い。
- V [語句整序] (標準) 昨年までと比べると、熟語の知識が必須ではなく、文法の理解を問う問題が多い。

大問Ⅲの文法問題は昨年ほどではないが、一部判断に迷う問題が含まれる。目標は全体で 75%

メルマガ無料登録で全教科配信! 本解答速報の内容に関するお問合せは…英進館メビオ ☎0120-192-215まで